

チャバネアオカメムシの発生が多い状況です

今後の発生動向に注意してください

[現在の状況]

6月第4半旬現在、果樹園に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数はかすみがうら市で平年より多く（図）、笠間市で平年よりやや多い。巡回調査圃場では、一部のナシ及びブドウ圃場で、チャバネアオカメムシの飛来が確認されている。

5月中旬におけるサクラでの叩き落とし調査では、チャバネアオカメムシの発生量は平年より多い。現在は、キリヤクワなど他の植物を餌としている（写真）。

本年2月上旬の越冬量調査におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数は、平年より多い。

本年のスギやヒノキの花粉飛散量は平年より少なかったため、夏から秋にかけてカメムシ類の主要な餌となる球果の結実数も少なくなると予想される。球果数が少ない場合は、餌不足になるため、今後果樹園への飛来数が増加する恐れがある。

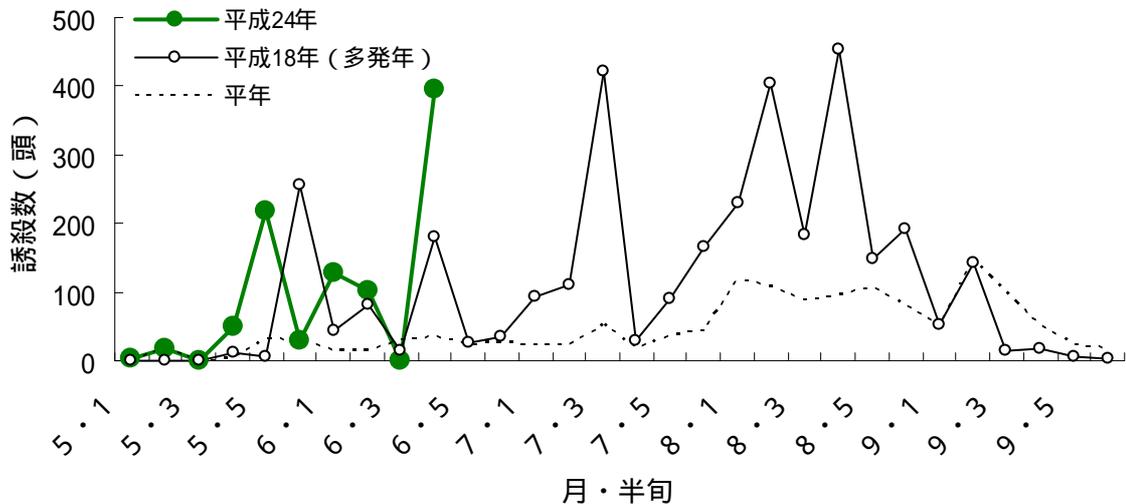


図 チャバネアオカメムシの予察灯（かすみがうら市）への誘殺数

[防除対策等]

夜温が高いと活動が活発になり、果樹園へも飛来するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。

ナシ園への飛来が多い場合は、平成24年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考にしてスミチオン水和剤40またはMR.ジョーカー水和剤等を散布する。

ブドウ園への飛来が多い場合は、表を参考に薬剤防除を行う。

今後、果樹以外にも、大豆・果菜類やキク等多くの作物に飛来して加害することが懸念されるため、カメムシ類の圃場への飛来を確認した場合は防除を徹底する。

今後の発生動向については、発生予察情報等で提供する最新の情報（ヒノキたたき落とし調査結果，予察灯調査等）を参考にする。

表 ブドウのカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成24年6月14日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 剤の使用回数	有効成分	殺菌剤との混用		
				レーバスフロアブル	オンリーワンフロアブル	ホライズンドライフロアブル
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日-3	ジメフラシ	- 1)	2)	-
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	前日-3	カチアジシ			

注) 栽培状況等により果粉溶脱や汚れの恐れがあるため，農薬ラベルに書かれた使用上の注意事項及び使用方法を必ず確認する

1) - : 混用事例はない

2) : 混用可



写真1 キリの茎や葉を加害するチャバネアオカメムシ



写真2 クワの実を加害するチャバネアオカメムシ